

## From Ibigawa S A B O

例年6月は雨の多い月ですが「水無月」と呼ばれます。語源は「水無月」＝「水の月」という説、旧暦の6月は梅雨明けする事が多く「水が無い月」という説等、諸説あります。越美山系砂防事務所では、今年度の里山探検隊が開校し、1回目の探検を実施しました。また、洪水対応演習を実施し、災害発生時の体制確認を行いました。

### 里山探検隊 開校・1回目の探検

里山探検隊は、揖斐川上流域の山間部の暮らしや文化に直接触れながら、山と水の関わりや、水源地保全や防災の大切さを理解していただく学習の場として毎年活動しています。今年度は25名の方に参加いただき、6月17日に、開校式と1回目の探検を実施しました。

今回は「揖斐川筋における大規模災害・里山生活体験から学ぶ」をテーマに、八草川山腹工事、ナンノ谷大崩落地および、横山ダム等を見学しました。また、ワンダ農園では昼食を兼ねて蕎麦打ち体験を行い、橋本東横山区長から、平成18年に発生した東横山地すべりについてお話をいただきました。全体を通して多数の方から質問をいただくなど、皆さん積極的に参加をされていました。



八草川山腹工事現場の見学

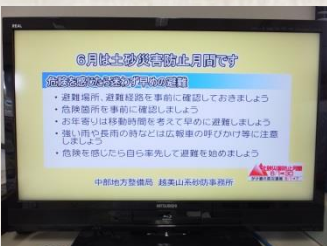


東横山区長のお話を傾聴する参加者の方々

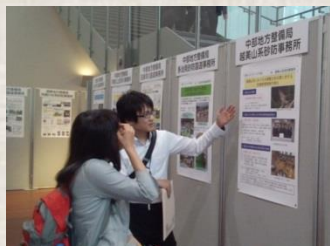
### 土砂災害防止月間の取り組み

6月の土砂災害防止月間の期間中は、様々な形で地域の皆さまへ呼びかけを行っております。事務所及び出張所では、期間中に懸垂幕とポスター掲示して、来訪者の目に留めています。また、周辺自治体に対しても、懸垂幕やポスターの掲示の他、ケーブルテレビでの文字放送や防災無線での放送及び、広報への掲載等から可能な範囲でご協力をいただいております。

また、6月4日には土砂災害防止「全国の集い」が山形市で催されました。当事務所からは職員2名が、現地の会場に掲示した資料を用いて、当事務所の砂防事業について来訪者へ説明を行い、土砂災害に対する警戒意識の向上を図りました。



いびがわチャンネル(ケーブルテレビ)の文字放送



土砂災害防止「全国の集い」にて来訪者へ事業説明

### 災害発生時の体制を確認

5月29日に事務所で洪水対応演習を実施しました。本演習は、出水期前に土砂災害発生時における事務所内での行動、関係機関との連絡、被災箇所の緊急復旧等の手順を確認することにより、災害発生時の体制に万全を期することを目的としています。今回は、台風の発生及びそれに伴う大雨による土砂災害の発生を想定して演習を行いました。今回の演習を含め、全員がそれぞれの役割を確実にこなせるよう今後も災害時の体制を充実させる事に努めていきます。



各々が情報収集・共有を行う

### 再度災害防止に向けて =下河原谷=

本巢市根尾大河原(おおがわら)地先の下河原谷で土石流の捕捉を目的とした、下河原谷第1砂防堰堤(堰堤高H=14.5m)を建設する工事に着手しました。

下河原谷では昨年8月の台風11号により、土石流が発生しました。流下した土砂や流木により国道157号が分断され、橋梁が被害を受けました。

砂防堰堤は、同様の土石流が発生しても下流への流出を防ぐことができます。

今年度の工事は、(株)所組が主に主堰堤の掘削およびコンクリートの打設などを行っています。



工事に着手した下河原谷

### 砂防施設の機能維持 =整備工事=

当出張所管内には170を越える砂防施設(砂防堰堤、溪流保全工など)が整備されています。これらの施設は梅雨、台風などの出水等で流出した土砂などで被害を受ける場合があります。

揖斐川砂防出張所管内整備工事は、被災した施設の応急復旧、老朽化した施設の補修、機能が低下した施設の機能復旧など、管内各地に点在する多種多様な小規模工事をまとめて行っています。

揖斐昭和建設(株)が砂防施設の機能を支える大切な工事を行っています。



魚道に堆積した土砂の撤去

## 揖斐川町の小中学生へ学びの場を

揖斐川町の校長会が、5月28日に揖斐川町役場内で開かれました。5月18日に開かれた本巢市の校長会に引き続き議事の中でお時間をいただき、当事務所及び中部建設青年会議岐阜支部から、当方の広報活動の取組として、防災に関する学習会や現場見学会を実施している事をお伝えしました。

また、本巢市の校長会と同様に、伊藤事務所長から「総合学習や職場体験など、積極的に協力させていただきます。」と呼びかけをさせていただきました。



校長会の様子

## 災害に備え、災害対策機械の操作訓練

災害対策機械等操作訓練が、6月4日に大垣市墨俣町のさい川さくら公園敷地内で実施されました。訓練には当事務所の2名を含む国土交通省職員と、周辺市町の職員が参加し、対策本部車、待機支援車、排水ポンプ車、照明車、Ku-SAT（衛生小型画像転送装置）の操作訓練を行いました。当事務所の管内は山間部のため、電波状況の悪い箇所も多く、災害時には河道閉塞形成の恐れもあります。状況に応じて有効に活用し、迅速な災害復旧に役立てていきます。



Ku-SATの操作訓練の様子

## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑧ 岐阜日日新聞《現岐阜新聞》による被害ドキュメント

40年災害における地元紙の報道は、徳山村・藤橋村《両村とも現揖斐川町》の被害報告に大きなスペースが割かれているが、その中から根尾村《現本巢市》に関するニュースをピックアップして紹介する。（一部、原文に手を加えた）

### ●9月16日朝刊 —— 本巢で家や橋流失

15日夕刻までに本巢県事務所《統廃合により閉鎖》へ入った連絡によると、樽見地区では民家20戸が床上、床下浸水したほか、能郷集落から約2km地点にある民家1戸と、約6kmの地点にある大成林産の飯場が流出し、地元消防団員が現地に向かった。また水鳥橋、大門橋、八谷橋が濁流のため流出、上原橋も流出寸前となっている。このため地元では、樽見公民館の南側へ土のうを積んで浸水を防いでいる。

このほか本巢町《現本巢市》木知原地内で水田約1haが冠水、同地内の根尾川堤防のじゃかごが約150m幅にわたって流出しているほか、付近の畑約1haも冠水している。

本巢県事務所では、15日午前11時から緊急対策会議を開き、とりあえず事務所に災害対策本部本巢班を設置、渡辺所長が被災地へ向かった。

### ●9月16日朝刊 —— 根尾、4人の安否気づかう

県災害対策本部は、15日午後守山の第10師団司令部に被災現地の偵察飛行を依頼した。根尾村《現本巢市》を担当したのは豊島三佐であるが、同日夕刻までに帰り、現地のもようを次のように語った。

豊島三佐の話では午後4時ごろ、揖斐川町営グラウンドから大型ヘリコプターで根尾村に向かった。樽見の校庭で発煙筒をたいていたので着陸した。

越波は増水の気配もまったくなく、被害はないようだった。しかし、大河原にきて被害が目につき、小学校のグラウンドなど、すっかり水につかっていた。幸い死傷者や家屋の倒壊はなかったが、上流にある営林署事務所の4人の消息が気づかわれた。

門脇の大門橋以北はいたるところで道路決壊、橋の流出が目につき、田畑の冠水もひどく一面、泥海だった。

<つづく>

出典：越美山系災害史（原文）

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所  
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月

## 水も滴る紫陽花

梅雨の時期は、各地でアジサイの花が雨水を滴らせながら咲いています。

岐阜県では関市の板取街道が「アジサイロード」と呼ばれ「日本の道100選」にも選ばれています。花の咲く時期は多くの方が、車窓からもしくは、車を降り散歩をしながら観賞に訪れるそうです。



出張所の裏でも  
今年も静かに咲いています



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。  
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel:0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)